

I 実践事例

6年1組 学級活動指導案

日時：令和5年10月17日（火）6校時

場所：6年1組教室（3階）

対象：第6学年 27名（男子13名，女子14名）

指導者：教諭 古屋 くるみ

1 題材名 「自分にできることについて考えよう」

内容（2）ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 題材設定の理由

がんは、日本人の死亡原因のうち約3割を占めている。生涯のうちに国民の2人に1人がかかる可能性がある「国民病」といわれ、健康に関する基礎的な教養として必要不可欠なものになってきている。また、がん対策基本法に基づくがん対策推進基本計画により、がんについての学校での教育のあり方を検討し実施することになっている。

小学校第6学年保健の教科書内でも、がんの基本事項として、発生原因・予防などについて医師が答える形式で触れられている。また、喫煙による影響の中においても、長期間の喫煙によってがんなどの病気にかかりやすくなるという記述もあり、生活の仕方とがんという病気を結び付けて考えられるようになっていく。

がんは自分自身や身近な人、だれにでも起こりうる病気である。小学校においてがんについての正しい知識を学ぶことで、生涯における自身の生活や健康に対する関心を高め、がんを予防するために自身にできることを考えていくことにつなげていきたい。また、本時では、がん経験者の話を実際に聞くという場を設けている。がんと向き合う人の気持ちに寄り添い共感的な理解を深めることで、児童のよりよい人間関係や心の形成にもつながっていくと考える。話を通して、がん患者の気持ちを知り寄り添う態度を持つとともに、自身にできることを主体的に考えることにつなげていきたい。

3 児童の実態

本学級は、男子13名女子14名（内1名特別支援学級在籍）の計27名である。男女分け隔てなく関わり、お互いのことを理解したうえで接していたり、相手の良いところを積極的に認めたりしている様子も見られ、素直な児童も多い。学習に対しても前向きであり、自分の考えを積極的に持ち、授業に臨もうという児童が多い。一方で、なかなか考えを持つことができない児童もいるが、少人数での話し合いや意見交流を通して、友だちの考えを生かしていこうとしている姿が見られる。

運動習慣について休み時間の様子を見ると、校庭で過ごす児童と校舎内で過ごす児童の二極化があり、運動不足の児童も見受けられる。生活習慣については、高学年になりインターネットやゲーム等に多くの時間を使っているために、生活時間が乱れ就寝が遅くなっている児童も数名見られる。また食事については、ほとんどの児童がバランスのとれた食事を摂っているが、中には野菜や肉、魚など苦手なものには手を出さずに残す児童も数名見受けられる。

事前に、児童に対してアンケートを実施し、がんの学習をすることで、健康な生活を送ることにつながる

と考えている児童が多いことが分かった。「がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。」という設問に対しては、96%の児童が「正しい」と回答しており、自分ががんになったときに対する不安感を抱いている様子が見られた。また、「がんは誰もがかかる可能性のある病気である。」という設問に対しては、全児童が「正しい」と答えていた。一方で、「自分はがんにならないと思う。」という設問に対しては、46%の児童が「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答しており、誰もがなり得る病気だとは思っている、自分はならないだろうと考えている児童が約半数いるということが分かった。さらに、がん予防に関わる項目として挙げられている、「喫煙をしないこと」や「バランスよく食事をする事」、「検診を受けること」については、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答する児童が8割以上であり、健康的な生活を送ろうとすることへの関心が高いということが分かった。「がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい」という設問には96%の児童が肯定的な回答をしていた。自分が罹患してしまう可能性に加え、身近な人がなってしまったらという可能性にも目を向け始めているということを感じた。

1学期には保健「病気の予防」の中で、病気の起こり方や生活の仕方と病気の関わりについて学んだ。学習を通して、生活習慣の改善が病気の予防につながるということを学ぶとともに、自身の生活習慣を見直し、健康に良い生活習慣として実践していきたいことについて考え、今後の生活に生かそうという意識を高めた。また、教科書にある「もっと知りたい調べたい」というコラムの中でがんについて触れている。2学期には、これまでに喫煙による害のなかで、長期間の喫煙ががんの一因になるということを知り、自身が病気を予防するためにできることについてはこれまでに考える機会があったが、罹患した人との関わり方や気持ちについては考える機会がなかった。さらに、がんに対してはコラムで基本事項に触れる中で「怖い病気」という思いが残り、正しい理解に及んでいないと思われる。

以上のことを踏まえ、学級活動の中で、がんに対する正しい知識や予防について確認し、がん経験者の話から自分にできることを主体的に考えられるようにしていきたい。

なお、本学級には身内の人でがんを罹患したという経験を持つ児童がいる。授業を展開する中で、配慮を心がけていく。

4 第5学年及び第6学年の学級活動の評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
健康で安全な生活を送ろうとするものの意義について理解するとともに、そのために必要となることを理解し身に付けている。	自己の生活、人間関係をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合ったり、意思決定をしたりすることができる。	学級における集団活動を通して身に付けたことを生かして、人間関係をよりよく形成し、他者と協働して集団や自己の課題を解決するとともに、将来の生き方を描き、その実現に向けて、日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

5 事前指導

活動の場面	児童の活動	指導上の留意点
・2学期はじめ	・事前アンケートの実施	・こちらから補足説明等を入れずに、アンケートに取り組ませる。
・保健領域	「病気の予防」 ・喫煙の害 ・飲酒の害	・喫煙や飲酒をすると、必ずなるというわけではなく、リスクにつながるという視点を持たせる。 ・家族に喫煙者、飲酒者がいるということにも考慮する。
・授業当日の朝学習時	・がんの発生要因や予防法などがまとめられた動画を視聴する。(文部科学省「がん教育推進のための教材」小学生版 映像教材:「がん博士の『がんについての基礎知識』」)	・がんの基本的な知識を理解させる。 ・がんに罹患している人、もしくは罹患したことがある人が身近にいる児童に、十分配慮する。

6 校内研究とのかかわり

「ともに考え深く学ぶ子ども」への具体的手だて

① 課題の明確化

- ・外部講師の話を聞く際、「がん患者の気持ち」に注目しながら聞かせる。
- ・ワークシートの中で、導入時に考えた自身の気持ちと実際にがんの経験をした人の気持ちを比較できるようにする。

② 個の意見の可視化

- ・発言した児童の名前を板書に残す。

③ 考えを深める意図的な問い

◎根拠を問う

- ・相違点を問う

*石和南小スタイル(考えを深める学習過程)

つかむ→考える→比べる・深める→まとめる→実行する

7 本時について

(1) 日時 令和5年10月17日 火曜日 (6校時 14:40~15:25)

(2) 場所 6年1組教室

(3) 本時のねらい

がんに対する正しい知識を持ち、がん患者の気持ちに寄り添い共感的な態度を養い、自身にできることについて主体的に考えることができるようにする。

(4) 展開

学習過程	学習内容 予想される子どもの反応 (○)	指導上の留意点 (・) 校内研の手だて (☆)	資料 (※) 評価
つかむ (5分)	<p>1 自分が病気になってしまった ときのことを考える。</p> <p>○熱が出るとつらい。 ○元気じゃなくなる。 ○はやく治ってほしい。 ○家族が心配してくれる。 ○暗い気持ちになる。</p> <p>(・アンケートの結果を提示 ・講師の紹介 →がんについて学んでいくこと を確認する。)</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>自分にできることを考えよう。</p> </div>	<p>・自分事として捉えさせる。 ☆発言した児童の名前を板書に残す。(手だて②)</p> <p>・本時の目標を確認し、見通しを持たせる。</p>	<p>※ワークシート (児童用) ※大型テレビ</p>
考える (15分)	<p>3 外部講師の話を聞く。 (スライド使用)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・体験 [時・体験 (時系列に沿って)] ・罹患したときの気持ち ・予防について</p> </div> <p>4 がん予防クイズをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・喫煙、受動喫煙 ・食事 ・飲酒 ・運動</p> </div> <p>(外部講師より)</p>	<p>☆外部講師の話を聞く際、「がん患者の気持ち」に注目しながら聞かせる。(手だて①)</p> <p>☆ワークシートの中で、導入時に考えた自身の気持ちと実際にがんの経験をした人の気持ちを比較できるようにする。 (手だて①)</p> <p>・必要に応じて、予防についての解説をしたり、なぜその行動が予防につながるのかを問い返したりして確認する中で、予防に関する基礎的な知識を理解させる。</p>	<p>※ワークシート (児童用) ※大型テレビ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> <p>知・技</p> </div> <p>がんに関する知識や行動の仕方について、理解している。(観察)</p>

<p>比べる 深める (20分)</p>	<p>5 がん患者の気持ちを考える。 (ワークシートにメモした内容を共有する。)</p> <p>○あきらめずに治していこう。 ○前向きに考えよう。 ○自分らしく生活していこう。 ○落ち込まずに明るく生活していこう。</p> <p>6 身の回りにはがん患者がいたとき、自分にできることは何か考え、話し合う。</p> <p>○そばで支える。 →自分が、具合が悪かった時に、家族が支えてくれてうれしかったから。 ○明るく話しかけたり、できることを積極的に手伝ったりする。 →具合が悪い時には、普段できることもできなくなるし、暗い気持ちになってしまうから。 ○楽しい話をする。 →明るい気持ちになって前向きになれると思うから。 ○静かにしている。 →具合が悪いときや頭が痛いときには、静かにしてもらっていた方がうれしかったから。</p>	<p>・がん患者の気持ちを明るさや前向きさ、つらさなど様々な面から多角的に捉えさせる。 ・自分が導入時に考えた気持ちと比べて、その違いに気づかせる。 (暗い⇔明るいなど)</p> <p>☆相違点を問う(手だて③) ☆発言した児童の名前を板書に残す。(手だて②)</p> <p>☆根拠を問う(手だて③)</p> <p>・なぜ、そのような行動をとるのかを問うことで、相手の気持ちに寄り添おうとする意識を高める。</p> <p>☆発言した児童の名前を板書に残す。(手だて②)</p>	<p>※ワークシート (児童用)</p> <p>主 がん患者の気持ちに寄り添い、自分にできることを主体的に考えることで、自分の生き方についての考えを深めようとしている。 (ワークシート・発言)</p> <p>思・判・表 がん患者の気持ちを考え、相手に合わせた行動の仕方を考えている。 (ワークシート・発言)</p>
------------------------------	--	--	---

<p>まとめる (5分)</p>	<p>7 本時を通して、感じたこと考えたことをまとめる。 (学習感想)</p> <p>(外部講師より)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学びの感想を書かせる。 ・机間指導を行い、必要に応じて講師の話聞いた感想で終わるのではなく、今後の生活で実践していこうとすることについて記述するように助言する。 	<p>主</p> <p>がん患者の気持ちに寄り添い、自分にできることを主体的に考えることで、自分の生き方についての考えを深めようとしている。</p> <p>(ワークシート・発言)</p>
----------------------	---	---	--

(5) 事後の指導

活動の場面	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業翌日の朝活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事後アンケートに答えるとともに、事前アンケートとの変容を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ がんに罹患している人が身近にいる児童に十分配慮する。 ・ 授業で学習したことを想起しながら、アンケートに答えることができるよう支援する。 ・ 今後の生活の中で、がん患者への思いやりの行動はもちろん、仲間がけがしたとき、仲間が困っているときなどにも同じように行動していけるように話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ がんに関する知識や行動の仕方について、理解している。 <p>【知識・技能】 〈アンケート〉</p>

(6) 板書計画

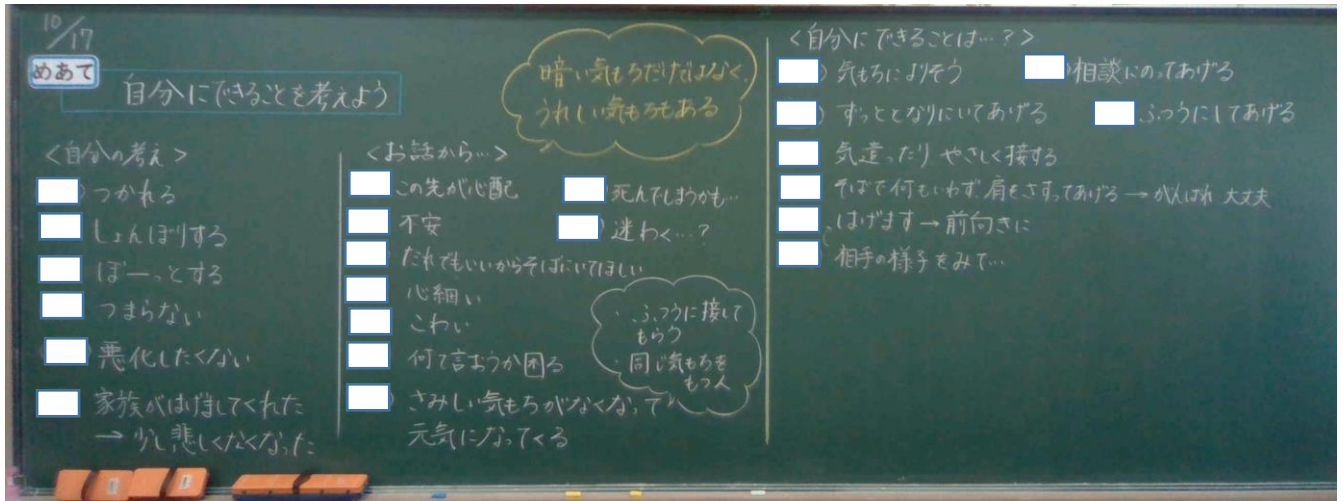
<p>めあて 自分にできることを考えよう。</p> <table border="1"><tr><td style="width: 50%; vertical-align: top;"><p>〈自分の考え〉</p><ul style="list-style-type: none">・ つらい・ 元気じゃない・ はやく治りたい・ 暗くなる・ 家族が心配してくれる</td><td style="width: 50%; vertical-align: top;"><p>〈お話から…〉</p><ul style="list-style-type: none">・ 治療がつらい・ あきらめない・ 前向きに・ 落ち込まず明るく</td></tr></table>	<p>〈自分の考え〉</p> <ul style="list-style-type: none">・ つらい・ 元気じゃない・ はやく治りたい・ 暗くなる・ 家族が心配してくれる	<p>〈お話から…〉</p> <ul style="list-style-type: none">・ 治療がつらい・ あきらめない・ 前向きに・ 落ち込まず明るく	<p>問. 身の回りにがん患者がいたとき、自分にできることは…?</p> <ul style="list-style-type: none">・ そばで支えてあげる →自分がされて、うれしくなったから・ 手伝えることはどんどんする →できないことが増えるかもしれないから・ 楽しい話をしてあげる →明るくなって前向きになれると思うから・ 静かにしている →具合が悪い時、静かにしてもらっていた
<p>〈自分の考え〉</p> <ul style="list-style-type: none">・ つらい・ 元気じゃない・ はやく治りたい・ 暗くなる・ 家族が心配してくれる	<p>〈お話から…〉</p> <ul style="list-style-type: none">・ 治療がつらい・ あきらめない・ 前向きに・ 落ち込まず明るく		

(7) ワークシート

<p>ワークシート 10月17日</p> <p>めあて</p> <table border="1"><tr><td style="width: 50%; vertical-align: top;"><p>① 自分が病気になってしまったとき、どんな気持ち?</p></td><td style="width: 50%; vertical-align: top;"><p>② がんになってしまった人の気持ちは?</p></td></tr></table> <p>※話を聞きながらメモを取りましょう。</p>	<p>① 自分が病気になってしまったとき、どんな気持ち?</p>	<p>② がんになってしまった人の気持ちは?</p>	<p>名前 ()</p> <p>③ 身の回りにがん患者がいたとき、自分にできることは…?</p> <p>学習感想</p>
<p>① 自分が病気になってしまったとき、どんな気持ち?</p>	<p>② がんになってしまった人の気持ちは?</p>		

(8) 授業の実際

① 板書



※ □ の部分には、発言した児童の名前を書いてあります。

② 児童ワークシート

児童A

ワークシート 10月17日

名前 ()

めあて
自分にできることを考えよう。

① 自分が病気になってしまったとき、どんな気持ち？
② がんになってしまった人の気持ちは？

こころ
・心細い (友) つかれる
・つらい (友) ぼーとする
・大変 (友) 家族が
・ひま (友) ぼーとして
しんぼり→うなづ
なた

この先の
・心配
・不安 (友) だれかに
こわい？ そばにいてほしい
・心細い (友)
・周りの人の支えが心の支え
めいわくになていないかな。

※話を聞きながらメモを取りましょう。

がん検診を受けて発見
ら虫さされのようなものがおねにあった
不安 (手術したり薬物や放射線治療をした)
周りの人の支えで乗り越えた (抗がん剤(副作用)はききだる、口内炎)
(家族・友達・仲間) 手伝ってあげたり、気持ちを考える・聞く
だれのせいでもない病気
周りの人もつらくなってしまうことがある
自分にできることをする
がんばろうと思える

7月けんさ
おね
抗がん剤(副作用)
はききだる、口内炎
手伝ってあげたり、気持ちを考える・聞く
だれのせいでもない病気
周りの人もつらくなってしまうことがある
自分にできることをする
がんばろうと思える
無理はきいてしょう
つらい時間
かまんしない
言わねえよ、あげてあげる

③ 身の回りにはがん患者がいたとき、自分にできることは...?
無理しすぎないでいかに、気づかてあげたり、やさしく接したりしてあげる
特別なあつかいはせず、今まで通り接してあげる。安心させてあげる
友達
はげましてあげる。そばにいてあげる
自分がつらかった時のことを思いだして、何をしてあげたらいいか考える。聞いてあげる
相談にのってあげる(元気になるまで)
なやみをなくしてあげる。気持ちによりそってあげる

学習感想
この1時間を通して私は、がんについてのあそしきや、原因を学んだり、周りの人の気持ちになて、どんなことをしてあげればいいのかを学びました。なのでこれからは、どんな時にも人には優しく接してあげたり、周りのみんなに大変な思いをさせたり、無理をさせることがないように、自分もがんにならないようにしたいと思いました!

自分は何が出来るのか、やさしい気持ちで考えていきたいね。

児童B

ワークシート 10月17日

名前 ()

めあて
自分のできることを考えよう

① 自分が病気になるってしまったとき、どんな気持ち？
 つかれろ
 しんぼり
 ボーとする
 悪化しとくない
 空想はばききり
 空想はばききり

② がんになってしまった人の気持ちは？
 ・自分や人生の先どうなるか不安
 ・なやむ
 ・心細い 苦しい 悲しい
 ・**絶望** 助けてほしい
 ・**たれでもいからせはしてほい**
 ・**思ひ** 思ひが強く不安
 ・**思ひ** 思ひが強く不安

※話を聞きながらメモを取りましょう。
 がんになるとなるといふも打つあんこの先どうなる？
 がんははげ、検査する がんをいかに早く見つけてあげたい。
 手術・薬物・放射線治療 → 治療の時期が長い
 ↓
 大体治療が終わる人によってちがう
 副作用が大変だった
 残り心づえ 周囲の人の支えが支えになる
 ↓
 いまを人に支えもらう = やる気がわいた
 ↓
 自分からしてもらうと良いことを思い出し、自分からできることを
 と聞くのは良い。 → その上で自分のできることをやる
 支え合って生きよう

③ 身の回りにがん患者がいたとき、自分のできることは…？
 ・はげます(空想)をみはからって
 ・特別あつかいをしない(なるべくつらい話を)
 ・なやみを聞いてあげていっしょになんかあげる。
 ・よりそってあげる。どんなことをしほいいが聞
 ・なやんでから聞いてあげる 手伝いもあげる
 ・**なやむ** 気もちよりそう 気づかい やさしく接する
 ・そばにいてあげる
 ・**そばに** 何もしないでいてあげる かけをさまであげる
 ・**相談** してあげる

学習感想
 この一時間の授業を通して改めて支えあうとい
 うのは大事だということが実感できました。
 また、がんになたりするとならない側のそ
 うをはるかに感じる不安をかかえているのも
 分かった。がんになっている側の一部の人の
 気持ちが勉強できたので良かったと思います。
 支えあう、これと大切の事ね。
 不安の気持ちをしっかりと考え感じるべき
 できました。

児童C

ワークシート 10月17日

名前 ()

めあて
自分のできることを考えよう。

① 自分が病気になるってしまったとき、どんな気持ち？
 ・つまらない ・つらい ・悲しい
 ・熱くなった時家族がはげましてくる。

② がんになってしまった人の気持ちは？
 ・この先どうなる(不安)
 ・家族に伝えて言えほいいか
 ・心がほげそうになる
 ・たれでもいからせはしてほい
 ・周囲の人にわいわいになていほいいか

※話を聞きながらメモを取りましょう。
 乳がん 女性に多い 40代後
 ・みんなの人に自分の体質を知らせてい
 ・しこりが大きくなるとき気づいた。(友達に言われて病院に行こうと思
 ・9か月くらい治療した。
 ・この先どうなる家族や周りの人に伝えてい
 治療方法 手術・薬物・放射線
 ↓
 悪い物もあしてくるが良いいほうもあしてしまうので、
 ぐわいかわるくなる。特に大変だった。
 ・周りの人の支えで乗り越えられた。
 ・友達をたづににしてくれたい
 ・同じがんを持っている人と会う
 ・家族や周りの人もつらくなる
 ・つらい時はがれせず相談する

③ 身の回りにがん患者がいたとき、自分のできることは…？
 ・はげまの言葉をいう。(かみはてたいし、うがだ)
 ・やさしいことをわてあげる。また、早く直るようなこととしてあげる。
 ・そばでなにもいわず、そばでいてあげる(相手の様子を見ながら)
 相談してあげる

学習感想
 ・がんは治せるが長い時間とをかけて治せるものなのでとてもすごく大変だと思
 ・のりに入らこそ今の清水さかいると思う。
 ・この授業を通してまたまた、できることがあると思
 幸いにはからこそ... その通りだね。
 下ることもし、さんあると知ることを下すに相

Ⅱ 実践のまとめ

【児童に対する事前・事後アンケート結果について】

質問 1 がんの学習の重要性について	実施前	実施後	増減
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う）	92.3%	95.8%	+3.5
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（そう思う）	88.5%	95.8%	+7.3
質問 2 がんという病気について	実施前	実施後	増減
がんは誰もがかかる可能性のある病気である（正しい）	100.0%	100.0%	±0.0
がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり命を失ったりすることがある（正しい）	96.2%	100.0%	+3.8
がんは日本人の死因の第2位である（誤り）	46.2%	95.8%	+49.6
たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある（正しい）	96.0%	100.0%	+4.0
早期発見すれば、がんは治りやすい（正しい）	100.0%	100.0%	±0.0
体の調子がいい場合は、定期的に検診を受けなくてもよい（誤り）	92.3%	100.0%	+7.7
がんの治療法には手術治療しかない（誤り）	84.6%	100.0%	+15.4
がんの痛みは我慢するしかない（誤り）	96.2%	100.0%	+3.8
質問 3 がんへの考えと共生社会について	実施前	実施後	増減
自分のがんにならないと思う（どちらかというと思わない・思わない）	53.9%	75.0%	+21.1
将来、たばこは吸わないでいようと思う（そう思う）	88.5%	87.5%	-1.0
日頃から、バランスのよい食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	50.0%	83.3%	+33.3
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（そう思う）	50.0%	79.2%	+29.2
がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである（思わない）	30.8%	66.7%	+35.9
がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う）	15.4%	12.5%	-2.9
がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい（そう思う）	76.9%	91.7%	+14.8
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（そう思う）	57.7%	70.8%	+13.1
家族や身近な人が健康であって欲しいと思う（そう思う）	84.6%	95.8%	+11.2
長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	80.8%	83.3%	+2.5

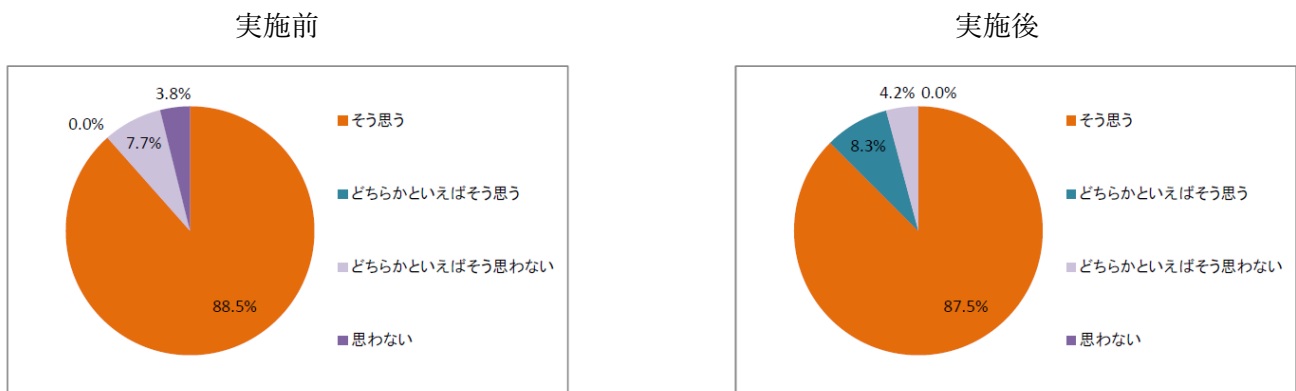
○アンケート結果の考察

事前アンケートを行った時点で、ここまでの保健の学習の中で「がん」について触れてきていたため、質問1「がんの学習の重要性について」では、高い水準で正しい理解や望ましい価値観を持っていることが見受けられた。一方で、質問2「がんという病気について」では、その理解度にバラつきが見られた。特に、「がんは日本人の死因第2位である」「がんの治療法には手術しかない」という質問に対しては、正答率が低かった。小学校の段階では、「がん」そのものに焦点を当てた授業はなく、生活習慣病と結び付けて考えるような形でコラムのように掲載されているために、知識の定着まではなかなか至らなかったためであると考えられる。しかし、公開授業に向けての事前学習として、映像資料「がん博士の『がんについての基礎知識』」を見ることや、外部講師を招いてのがん教育を通して、子どもたちの「がん」に対する理解度が高まり、アンケートにおける正答率の高まりにつながったと推測される。

今回の公開授業は、「自分にできることについて考えよう」というテーマのもと、がんとの共生、そして人（がん患者）との関わりについて考えてきた。事後アンケートの質問3「がんへの考えと共生社会について」の各項目を見ると、数値が上がっている項目が多く、外部講師の話聞くことで、がんという病気を身近に捉え始めた児童が増えたのではないかと推測される。また、授業内で取り組んだがんクイズを通して、楽しみながら知識を獲得したことも結果から見受けられた。さらに、人との関わりについては、「がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい」「家族や身近な人が健康であって欲しいと思う」という項目で変化が見られており、一定の教育効果を得られたのではないと思われる。

一方で、実施前後の結果が減少している項目が2つあった。質問3における、「将来、たばこを吸わないでいようと思う」、「がんになっても生活の質を高めることができる」とについてである。

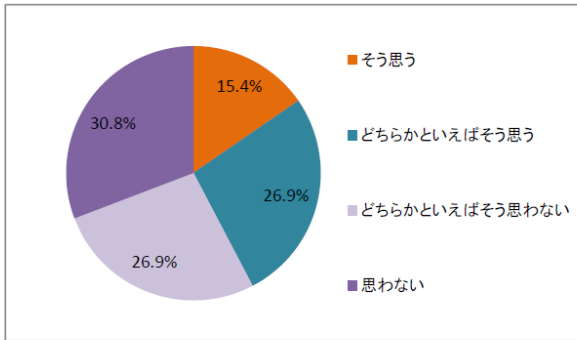
「将来、たばこは吸わないでいようと思う」（資料①）



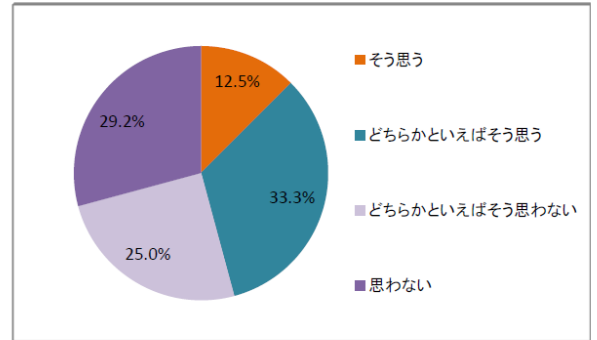
たばこ（資料①）については、数値だけでみると「そう思う」と回答した児童の割合が、実施後のアンケートでは減少しているが、アンケート結果を詳しく見ていくと、改善傾向が見られた。今回の授業を通して、「思わない」という項目が0%になり、また、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」の割合が11.5%から4.2%へと減少している。対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」については、88.5%から95.8%へと増加している。これは、たばこに含まれる有害物質やこれによる人体への影響について、事前の映像資料や授業内でのがんクイズを通して学んだ結果であると考えられる。

「がんになっても生活の質を高めることができる」(資料②)

実施前



実施後



生活の質の向上(資料②)については、「そう思う」の割合が15.4%から12.5%へと減少している。しかし、「どちらかといえばそう思う」の割合を含めると、42.3%から45.8%に増加している。

がんに罹患した後の生活における不便さや不自由さを感じている児童がいるものの、一方で、外部講師の体験談の中から、身近な人の存在に対する感謝や日常の中で支えられていることに気づき、罹患後の生活においても変わらず明るく生活できるということを感じ取った児童がいると考えられる。

【「がん教育推進校授業公開」アンケート結果(笛吹市立石和南小学校)】

対象者：一般参加者 20 名

達成できた← 参考になった← →達成できなかった
→参考にならなかった

	5	4	3	2	1
本時のねらいは達成できたか	19	1	0	0	0
外部講師の活用は効果的だったか	18	2	0	0	0
学校におけるがん教育をすすめるうえで、本日の授業は参考になったか	16	4	0	0	0

○本時のねらいは達成できたか

- ・講師の話す内容を理解し、がん患者の気持ちに寄り添う考えができていた。今の自分にできることを考えていた。【養護教諭】
- ・自分にできることをよく考えて、相手のことまで考えて対応するという事に気づけていて素晴らしいと思ったから。【教諭】
- ・子どもたちの発言から、がんに対する正しい知識や今の自分自身にできることは何かを主体的に、自分事として考えている様子が見られたため。【養護教諭】
- ・ワークシート、児童の発表の中から患者に寄り添う言葉や気持ちが見られた。自分が罹患しないようにしようとする発表もあった。【養護教諭】
- ・児童の感想発表から達成できたことがうかがえる。【養護教諭】

○外部講師の活用は効果的だったか

- ・あまり児童にとっては身近ではないため、他人ごとになってしまいがちだが、実際に話を聞くことで自分事のように捉えることができていた。【教諭】
- ・外部講師の実際の体験の中で、周りの支えについて具体的に述べていただいたので、子どもたちにも具体的な手だての道筋ができたと思う。【養護教諭】
- ・子どもの時期にはなかなか身近に感じる事ができないがんを体験した講師の話をも直接聞くことができ、児童ががんについて考える良いきっかけになると感じたため。【養護教諭】
- ・実体験のお話には強い説得力を感じた。清水先生がお話しした20分ほどの情報量がすごく多いと感じた。【養護教諭】
- ・がんについての知識は、担任が事前に指導を行い、外部指導にはがんになった時の体験をもう少し長い時間話して頂くのがよかったのではないかと感じた。【養護教諭】

○学校におけるがん教育をすすめるうえで、本日の授業は参考になったか

- ・がん教育について、目的や流れ、子どもたちはがん教育から何を学ぶのかが、自分の中で明確になった。【養護教諭】
- ・体験談を聞く機会を設けることで、身近なことなんだなと子どもたちが感じる事ができていたため。【教諭】
- ・実際に授業を拝見することで、講師と授業者の役割がわかった。【養護教諭】
- ・外部講師の有用性が分かったため。【養護教諭】
- ・授業をした学校や担任、養護教諭の負担感や大変なところがなかったのかが気になる。薬物乱用防止の授業も県は推進しているが、今後この他にも行うものが増えて来ると思うので不安を感じる。【養護教諭】

○学校におけるがん教育をすすめるうえでの課題について

- ・がん教育を行う教員ががんに対して正しい知識を持ち、学習指導要領を読み込んだ上で児童生徒に何を伝えたいのかをよくかみくだいて深める必要があると考える。そこにまだ抵抗があることが課題になっているのではないか。【養護教諭】
- ・時間の確保だと思う。【養護教諭】
- ・外部講師を呼ぶための予算や、学校内のスケジュール調整、授業を行う教諭の負担など。【養護教諭】
- ・がん教育以外の、現代の子どもたちに必要な指導が幅をとり、がん教育を積極的に進めていこうとする校内の同意が得られにくいのではないかと。【養護教諭】
- ・昨年度、お便りや保健指導でがんについての啓発をしようと思ったが、対象学年に母親を闘病中に亡くした児童がいたので躊躇した。罹患した父母兄弟が身近にいる、亡くなったなどの場合の介入の仕方は？【養護教諭】
- ・がん教育を進める上で、まず我々教師が学ばなければならない。【教諭】
- ・なかなか自分事として捉えることが難しいため、「自分ががんになってしまったら」「身近な人が罹患したら」について、子どもたちが自分事として考えることができる授業をつくることへの難しさを感じる。【教諭】

○その他（気づいたこと・感想等）

- ・とてもねらいに沿った授業展開・外部講師の講話で、児童たちもクイズ等で楽しみながら考えるときは考えるでメリハリをつけながらわかりやすく進められたと思う。【養護教諭】
- ・自分の考えを持ち、相手に伝えることもしっかりできていて、素晴らしいと思った。【養護教諭】
- ・素晴らしい意見がたくさん発表されていた。【養護教諭】
- ・がん教育の範囲だけでなく、生活の中で子どもたちが大切にすべき気持ちの持ち方も学ぶことができ、自身の実践に生かしていきたいと思った。【養護教諭】
- ・40年後の未来を想像して、がんにならないように、健康診断を受けるという言葉を引き出せたらよかったと思う。【養護教諭】
- ・児童が挨拶の時に、しっかりと顔を見て挨拶をしてから礼をしており、とても印象が良かった。また、授業者の板書の工夫や、発問の仕方、児童が発表した後の声掛け、グループワークに入るときの「(プリント記入内容と考えを)増やしてー。」の声掛け等とても参考になった。【養護教諭】

【公開授業後の授業検討会より】

- ・授業の展開がよく、ねらいに子どもが近づく授業になっていた。【委員】
- ・誰もがわかる、使えるようなワークシートになっていた。【委員】
- ・経験から語られることで、児童が自分事として考える授業につながり、身近ではないことを身近に感じさせる授業になっていた。【委員】
- ・教師のファシリテーターとしての役割の有効性が見られた。【委員】
- ・子どもへ正しい知識を伝えるための言葉選びに難しさがある。【委員】

【笛吹市立石和南小学校におけるがん教育について】

本来、小学校段階において「がん」に特化した内容は設定されていないが、保健の教科書内で何か所も「がん」という言葉が登場することから、がんを身近な問題として捉えていくことが必要であるとうかがえる。一方で、正しい知識や理解を得るということにはなかなか及ばず、コラム内で取り上げられていることを読むにとどまっているという現状がある。

本授業は、保健の授業を進めていく中で、その内容からがんに関わり、学級活動の一環として行うこととした。あくまで、「がんに関わった人（病気になった人）に対して」をゴールとし、深い知識理解を問うことなく、子どもたちの今後の生活における人との関わり方につながるような目的を設定した。児童の様子を見ながら、がんに対する知識が教科書以上に深まっていったこと、友だちとの交流の中で自身のなかに新しい考えが生まれ、よりよい人との付き合い方を考えようとする姿勢が見られた。また、外部講師の講話に耳を傾け、今まで知らなかったことや、罹患者の心情に寄り添いながらメモをたくさん取り、自身のワークシートを埋めていった。子どもたちの感想からは、身近ではないことを身近な課題として捉えようとする姿が見られ、アンケート結果からもその成果は如実に表れた。本実践から、子どもたちは小学生なりに1人1人ががんと向き合い、興味や関心を持って学んでいた。また、自身の将来のため、身近な人のためなどについて考えることで、健康の大切さや人との関わり方について学ぶこともできた。

小学校において、がん教育を進めていく中で、まず大切なのは、「自分事として捉えること」であると考えられる。子どもたちの発達段階やカリキュラムに合わせて、がんという病気を身近に捉える工夫が必要である。今回使用した映像教材、「がん博士の『がんについての基礎知識』」は小学生にとってもわかりやすく知識を得る手立てとして有効であり、事前学習を行うことで本時にスムーズにつなげていくことができた。また、外部講師を招いての授業を行うことで実際の体験を耳にすることができ、教科書の中だけでは得られないことを子どもたちは学び、感じていた。

今後、がん教育を推進していくにあたっては、教科を横断したカリキュラム・マネジメントを行っていく必要がある。また、指導する教員もがんについて知り、教員同士でも情報を共有したり、連携したりするなどをしていくことも必要である。さらに、外部講師を活用したがん教育については、地域社会の現状や取組等が今後変わってくることも考えられるため、継続的に外部の方と連携を図りながら取り組むことが大切である。

これからも、子どもたちが「将来の健康のために」主体的に学べるような教育環境を整えていきたいと考える。